

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

第3016227号

(45)発行日 平成7年(1995)9月26日

(24)登録日 平成7年(1995)7月19日

(51)Int.Cl.⁶

F 2 1 V 35/00

識別記号

B

片内整理番号

F I

技術表示箇所

評価書の請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 実願平7-4006

(22)出願日 平成7年(1995)3月26日

(73)実用新案権者 591129564

三木 正夫

京都府向日市上植野町浄徳36の40番地

(72)考案者 三木 正夫

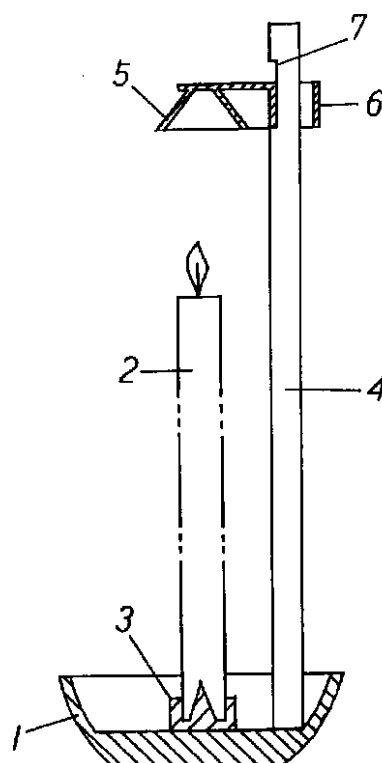
京都府向日市上植野町浄徳36番地の40

(54)【考案の名称】 燭 台

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 本考案は、地震等によって揺動すると消火機構が作動し、確実に消火することができる燭台を提供しようとするものである。

【構成】 震動によって揺動が可能な台座1にろうソク植立部3と角柱4を各々設け、ろうソク植立部3の上方に対応する消火体5を、これの他端に形成した角筒に上記角柱を嵌入して角柱4に昇降可能に設け、この消火体5を、その角筒6を角柱4の上部に形成した止定凹部7に嵌合させて上部に保持可能に設けたものである。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 振動によって揺動が可能な台座にろうソク植立部と角柱を各々設け、ろうソク植立部の上方に対応する消火体を、これの他端に形成した角筒に上記角柱を嵌入して角柱に昇降可能に設け、この消火体を、その角筒を角柱の上部に形成した止定凹部に係合させて上部に保持可能にしたことを特徴とする燭台。

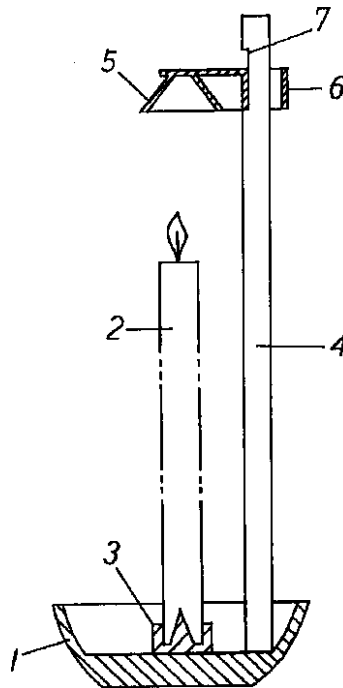
* 【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案の一部を断面した正面図である。

【符号の説明】

- | | |
|-----------|--------|
| 1 台座 | 2 ろうソク |
| 3 ろうソク植立部 | 4 角柱 |
| 5 消火体 | 6 角筒 |
| * 7 止定凹部 | |

【図 1】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、地震等によって点火状態のろうソクが揺れた場合に、消火することができる燭台に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来、地震等によって転倒したときに消火機構が作動する燭台は存在したが、揺動状態で消火される燭台は存在しなかった。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案は、上記した従来例の難点に対処したもので、地震等で転倒する前の揺動状態において消火機構が作動し、確実に消火することができる安全な燭台を提供しようとするものである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案は、上記した課題を解決するためになされたもので、その構成は、震動によって揺動が可能な台座にろうソク植立部と角柱を各々設け、ろうソク植立部の上方に対応する消火体を、これの他端に形成した角筒に上記角柱を嵌入して角柱に昇降可能に設け、消火体は、その角筒を角柱の上部に形成した止定凹部に係合させて上部に保持可能にした燭台である。

【0005】**【作用】**

本考案は、ろうソクの点火状態において、地震等によって台座が揺動して角柱が傾斜すると、上方に保持されていた消火体が角柱の止定凹部より外れて、角柱に沿って落下し、ろうソクの芯を被覆して消火する。

【0006】**【実施例】**

以下、本考案の実施例について説明する。

1は台座で、金属等の重量物からなり、一定の震動を受けた場合に揺動するように底面が平坦に、側面が円弧状に形成されている。この台座1の上面中央には、ろうソク2の穴に嵌入する突起とろうソク2が嵌合する円周枠とからなるろうソク植立部3が形成されている。4は角柱で、台座1に植設されている。5は消火体で、逆碗状に形成され、ろうソク植立部3の上方に対応しており、他端に形成した角筒6に角柱4を嵌入して角柱4に昇降可能に設けられている。この消火体5は、平常時においては、その角筒6を角柱4の上部に形成した止定凹部7に係合して、上方位置に保持可能に設けられている。この消火体5は、その角筒6が震動によって止定凹部7より外れると、自重によって角筒6が角柱4を摺動して落下する。

【0007】

本考案は上記の構成からなり、消火体5をその角筒6を角柱4の止定凹部7に係合させて上部に保持させ、台座1のろうソク植立部3にろうソク2を植立して点火した状態において、地震等によって台座1が揺動し、角柱4が傾斜すると、消火体5の角筒6が角柱4の止定凹部7より外れる。すると、消火体5が自重で、その角筒6が角柱4を摺動して落下し、消火体5が燃焼中のろうソク2の燃焼中の芯を被覆し、消火する。

【0008】

【考案の効果】

本考案の燭台は、上記の説明によって明らかなように、地震等によって転倒する以前の台座が揺動して角柱が傾斜した状態において、角柱の上方に角筒を介して角柱の止定凹部に係合した消火体が落下し、消火体が燃焼中のろうソクの芯を被覆して自動的に消火するので、極めて安全である。

又本考案においては、その角筒を角柱に係合して昇降可能に設けたので、消火体はその角筒が角柱に案内されるため水平方向へ回転するおそれがなく直下に落下し、横方向へずれないため、燃焼中のろうソクの芯を被覆して確実に消火することができ、構造が簡単である等、極めて実用的な効果を有している。